
勇者は自身の剣を折る

tismo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者は自身の剣を折る

【Nコード】

N1767W

【作者名】

tismo

【あらすじ】

蛮勇は、勇氣に変わらない。

勇者は覚悟した

かの暴虐なる魔王を目の前に己の全てを賭けて討ち取ることを。聡明なる王に頼まれ、奇形の魔物共を操り民を苦しめる魔王を破る指名を与えられた時の勇壮なる佇まいとは異なり、悲壮感に満ちているが彼の瞳に宿る決意は決して変わらず。彼に残る武器は少ない。左腕はもう使えない。すでに跡形もなく血が大地を濡らすばかりである。両足は立つこともままならない。それでも立つのは勇者の意地故か。彼の鎧は既に意味を成さない。色も形も傷つき元の形も思い出せず、今はただ身体に重く絡み付くばかりである。幾多もの敵を屠ってきた歴戦の仲間達はもう大地に伏して、その鼓動を響かせることはない。目前の魔王の右腕にただその跡を赤く滴らせているばかり。彼にはもう頼るべきものはない。仲間も力も既に過去に過ぎ去り、ただ孤独に強大なる敵に面するのみ。一つだけ、彼に残るのは、辛うじて動く左腕とそこに握られた聖なる剣。剣ですらも大きすぎる力に傷つき、その絶対性が失われている。ただ、彼に残った最後の一つである。その最後まで賭けて彼は覚悟した。目の前の強大なる敵を打ち砕くために、世界の救済への犠牲になることを深く覚悟した。

まともに立てぬ足に更に鞭をうって、力強さの失われた一步を踏み出す。己のものが、仲間のものか血溜まりが音を鳴らし、切なく胸を打つ。今までの旅が酷く遠く、空の向こうに見えた。彼の始まりは小さな村だった。始めに手をとってくれたのは近くに住む女の子だった。彼女と一緒に村を駆け回り、野花を摘み、大人達を困らせた。父も母も姉も暖かい人達であった。寒い日は共に火を囲い、暑い日は近くの湖に水浴びをした。父の背中が大きく、母の料理はいつも暖かく、姉は愚痴りながらも世話を焼いてくれた。奇しくも、

それら全てが失われた時が彼の勇者として目覚めた日であった。

勇者、その名の由来は果たして何であったのか、彼がそう呼ばれた時、深く悲しみの中にありながらもそう思ったのだった。魔物が小さな村を襲来し、壊滅した。世間にはありふれた在り来りな話であったが、幼い彼には深く傷を残し全てを失った運命の日であった。

彼は、そう、何もできなかった。幼い少年に何が出来ようか。最後に、いつもよりも遥かに頼り強く大きく見えた父の背中も、彼とその姉を身を呈して庇った母の涙に満ちた笑顔も、父と母を探して叫び戸惑いながらも最後に彼を川に突き落とし魔物の鋭利な刃に身を貫かれた姉も、誰ひとり助けることなく死なせてしまった。彼を川から引き上げた幼なじみは、彼が意識をはっきりさせた時には既に遅く、最後に一言彼に勇者の目覚めを意識させた悲しい言葉を呟き、逝ってしまった。理性を失って、暴れ、引き裂き、狂い狂って、魔物の臓物を嫌になるほど喰らって、気づいた時には村は無くなり、全ては失われていた。

勇者とは、勇気ある大いなる者、魔王を打ち砕く者。彼が聖剣に選ばれ、魔王を敵とわかり、そして幼なじみの一言を思い出した時、勇者となることを決めた。国からお供として国を代表とする戦士達が選ばれたが、彼等と友人とも仲間ともなることはできなかった。勇者を世界を救う者と敬い、また勇者に供する自分を素晴らしき者と自負する彼等は、何か間違っているように思ったからである。彼の戦う理由も彼等となんら変わらぬものであったが。多くの魔物を打ち倒し、世界中を駆け巡り、数え切れぬ人々と出会った。人々が自分を勇者と涙ながらに触れてくる姿は彼にとってすれば至極迷惑なことではなかった。彼は次第に勇者の自分が嫌いとなって行く人々を騙すような自分が嫌いとなっていく。彼が勇者として戦うのは、決して勇気のためでもなく、人々のためでもなく。ただ幼なじみを思い出して。大切な人達から貰った最後の言葉が彼を動かしていたからだった。

勇者は自身の剣を折る。

魔王にたたき付けた彼の覚悟は、結果宙を舞って折れて碎ける。勇者は宙のそれをぼんやりと眺めながら、自身の最後を理解する。魔王の右腕が自分の首を切り裂くのを理解する。致命的で助かりようがないことも、自身の膝が崩れ落ちることも、理解する。宙で舞う剣は大地を滑って、やがて止まる。手に今だ握りしめられた剣の塚を感じながら、世界をまた裏切ったのだとわかり、最後の自己嫌悪をする。勇者の頭には今まで何度も思い出してきた幼なじみの言葉を思い出して、目の端を濡らした。彼の勇者としての役割は、彼にとっては結局復讐のための言い訳でしかなかったことに今気づいた。民の期待を裏切って、勇者の役割も為せず、最後には何よりも大事だった幼なじみの言葉すらも裏切った。いったいなんのために生きてきたのか。勇氣ある者でもなく、正義に満ちた使命もないながら、復讐のために勇者となり、無念のうちに死んでいく。大地に伏して、首から流れでる暖かい血を感じながら、背中を向ける魔王に手を伸ばす。大切な者を奪った元凶、村を襲った魔物達の王、それよりなにより好きだった幼なじみにあんな言葉を吐かせたことは許せなかった。蛮勇と言われても勇者となつてまで殺したかった。手はもう魔王を掴めない。折れた剣を握る程の力も残っていない。『こんな世界、生まれなくなかった』自分との思い出も彼女が生きてきた全てを吐かせたあいつを許せない。届かない。届か、な……い。

それから、勇者は世界から消え、魔王が本格的に活動を開始する。世界は勇者を信じ続けたが、その期待が深い分だけ魔物に喰われる者が増えていく。

復讐を誓う者は勇者となれない。蛮勇は勇氣に変わらない。誰の思いも報われず、誰にも世界を救われず、魔物は人々をただ単に襲いかかる。

こうして、世界は緩やかに滅びに向かっていく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1767w/>

勇者は自身の剣を折る

2011年10月9日14時43分発行